

5．地理：アラブ人が支配したり、多くを占める国々の中でも、サウディアラビアは石油資源のお蔭で豊かになり、アラブ人及び全世界のイスラム教徒（ムスリム）の中心国家であると自他共に認めています。国王は正式には「二つの聖モスクの守護者にしてサウディアラビア王国の国王」と呼ばれています。そのサウディアラビアは日本から西へ90度行った東経45度にあり、緯度は違いますが同経度にはモスクワがあり、時差が6時間です。

まさかりの刃の形をしたアラビア半島の4分の3をサウディアラビアが占めていますが、半島には他にクエート・バハレーン・カタール・アラブ首長国連邦・オマーン・イエメンと6つのアラブ諸国があります。イエメンは「シバの女王」の昔から香料交易で栄え、親日的な国王スルタンカブースの支配するオマーンは「シンドバッド物語」発祥の地です。

サウディの面積は日本の約7倍の広さですが、風によって砂丘が移動する国境が多い為、未だ国境線が確定していない所がイエメン・カタール・首長国等の間にあり、地下に眠る石油資源の思惑もあって未だ話し合い中だからです。サウディの国土は大きく4つに分けられ1．西部山岳地帯（紅海を渡る湿った空気で比較的雨が多く、マッカ・マディーナ等イスラム教発祥地でもあり、最も人口の多い所）2．中央高原地帯（現王族サウド家発祥のリアドやネジド沙漠を含む所）3．東部土漠地帯（世界最大の油田がこの地域と東に隣接するアラビア湾・日本ではペルシャ湾内にある）4．南部沙漠地帯（別名空白地帯ルブアルハリイと言われるが近年良質の石油の埋蔵が確認された）からなっています。国土全体の50％が純粋な砂漠、40％が土・砂・石混合の土漠、10％が山岳とオアシスです。西部山岳は1千～3千m級の山が連なり緑も多く避暑地として有名な所も多く有ります。

気候は4月から10月までがエアコンがないと厳しい30～50度の気温が続き、殆ど雨は降りません。11月から3月までは日本の春か秋位の気温5～25度が続き、数回雨が降り雷もあります。時には空一面が黄褐色の細かい砂で覆われる「砂嵐」が来て、最近はこの砂が偏西風に乗り日本にも飛んで来ている事が観測されています。自然の緑は少ないのですが1～3月頃は土漠に草が萌え、羊が良く育つので最も好まれる季節です。昔からオアシスカ井戸の付近での農業と、土漠に僅かに生える草を求め羊・ラクダを追う遊牧業と、近隣諸国との陸路・海路を通っての交易業が石油発見前迄のサウディアラビアの主な産業だったようで、20世紀初め頃は人口も50万人ぐらいだったと言われています。

6．歴史：サウディアラビアを更に理解する為には歴史を知っておく方がいいので概略触れておきます。この辺りの人々は旧約聖書の時代にさかのぼって記録され、セム系のアブラハムの長男イスマイルがアラブ人の祖先、次男イサークがユダヤ人の祖先と言われています。エジプト・メソポタミア両文明に挟まれ古くから人が住んでいたようです。十戒を授かったモーゼはシナイ半島山中で、キリストの活躍地はヨルダン川沿いでした。

西暦7世紀始めマッカ近郊の山中でムハンマドは天啓を受け、それまで多神教の偶像崇拜していた人々を一神教に改めさせ、イスラム教の布教を始めました。その頃の日本は聖徳太子が活躍し、中国では玄奘三蔵が仏典を求めてインドに旅していました。630年代にはマッカ・マディーナを含むアラビア半島を席卷したイスラム教は、7世紀後半にはその中心を今のダマスカスや更にバグダッド付近に移し、ウマイヤ朝・アッバース朝等のサラセン帝国として300年程イスラム文化が栄えました。

11世紀のセルジウクトルコの後、13世紀から200年程蒙古系に支配されましたが彼等はイスラム教を許していました。15世紀から20世紀始めまでメソポタミアやアラビア半島はイスタンブールを都とするオスマントルコ帝国に500年近く支配されていました。オスマントルコ人による植民地支配に取って代ったのは19世紀末からの欧州列強による南西アジア分捕り合戦で、第一次世界大戦後のオスマントルコ滅亡に乗じて、住民無視の国境線を引いてしまいました。

19世紀末に有力部族との抗争に敗れ、リアドからクエートに亡命生活を送っていたアブドゥルアジズ・イブンサウドは20世紀始めにリアドを奪還し、イスラム教指導者の協力を得て、敵対する部族には聖戦ジハードと称して剣で服従させ、友好部族とは婚姻関係を結ぶ事によってその部族全体を庇護し、1932年には半島の大部分を支配しサウディアラビア王国の建国を宣言しました。その抗争に敗れた部族の幾つかは欧州諸国の斡旋もあり、ヨルダンやイラクに移り王政を敷きました。ヨルダンはハシム家の王国で現在も続いています。イラクの王政はサダム・フセインのバース党に倒されてしまいました。

サウディアラビアのこのような建国の経緯から、サウド一族とイスラム教指導者及び有力部族長達が集まって政治をする、世界でも数少ない「政教一致」のイスラム王国の基本が出来ました。憲法・民法・刑法の代わりにイスラム教の聖典コラーンやシャリーア・ハディースを解釈運用する事によって法と秩序を保っています。しかし1万人以上いると言われる王族の収入や豪勢な暮らしに不満を抱く一般の貧しい部族民の中には「反王政活動」の為、激しいテロ活動をする者が増え、当局は制圧に手を焼いているのが現状です。テレビで見られたかも知れませんが、昨年秋のリアドの高級コンパウンド爆破では多数の死者が出ています。91年湾岸戦争の後サウディ政府は米軍駐留を認めましたが、オサマビンラディンや反体制宗教指導者らの激しい抵抗で、イラク戦争にはサウディ国内の基地使用を断り、昨年夏には米軍を追い出し隣国カタルへ駐留させる結果となりました。

サウディの人口は統計がはっきりしませんが2000～2200万人と言われ、内サウディ人が1400～1600万、外国人長期滞在者が600万人でインド・パキスタン・エジプト出身が多いようです。